

# 大学生の消防団に対する認知度と参加意欲に関する調査

## Student's Knowledge and Volition Involving in Shobodan

○小池則満<sup>1</sup>  
Norimitsu KOIKE<sup>1</sup>

<sup>1</sup>愛知工業大学都市環境学科土木工学専攻  
Department of Civil Engineering, Aichi Institute of Technology

The Shobodan is the volunteer fire corps in their region in Japan. They are involved in firefighters, rescue, warning patrols, education and so on. However the number of Shobodan has gradually decreased every year. We have done the questionnaire survey to grasp student's opinion about Shobodan. As the results, they know the name of Shobodan. However, nobody join the Shobodan. Almost students haven't been given an invitation by Shobodan. Many students think the activity of "shobodan" is need, however some student answered the deference between firefighters and Shobodan can't be understand. For involving students to Shobodan in future, it is necessary to give the information, the condition to join easily, the enough reward and the trial opportunity which is a part of internship.

**Keywords :** volunteer fire corps, student, questionnaire survey

### 1. はじめに

消防団員は現在、消防の常備化の進展、人口の過疎化、少子高齢化社会の到来、就業構造の変化に伴って減少傾向にあり、団員の平均年齢の上昇が進んでいる。消防庁も消防団員数の減少による地域防災力の低下を危惧し、入団促進キャンペーンや機能別消防団制度を導入するなど、消防団員数増員に向けた取り組みをしている。また、平成 18 年度には「大学生等の消防団への参加促進について」という通知が消防庁から出されている<sup>1)</sup>。学生向けのホームページも開設しているが、消防団員数の減少に歯止めが効かないのが現状である<sup>2)</sup>

本研究では、大学生の消防団活動に対する認知度と参加意欲に関する意識調査を行い、増員に繋げるための提案をすることを目的とする。

### 2. 消防団に関する認知度及び意識調査概要

愛知工業大学で土木工学を専攻している 1~3 年生の学生を対象に消防団に関するアンケートを平成 22 年 11 月中旬~12 月上旬の講義中に直接配布、回収した。回収数 230 名、有効回答数 179 名、有効回答率 77.8%を得た。アンケート用紙とは別に消防団についての説明文を配布し、消防団の活動を知らない回答者が無回答となってしまうないように配慮した。

### 3. アンケートの集計結果

消防団に入団している学生は一人も居なかった。また、入団の勧誘を受けたことがある学生も、わずか 7 名であった。

図-1 に問「消防団の説明文に書いてある活動内容を知っていましたか？」の回答結果を示す。少なくとも 8 割の学生は消防団という名前は聞いたことがあるとしている。図-2 に問「消防団という組織をどのようにして知りましたか？」への回答結果を示す。テレビや新聞などのメディアを通して消防団を知ったと回答した学生が多く、

一方で消防団員から聞いて知ったと回答した学生は少なかった。

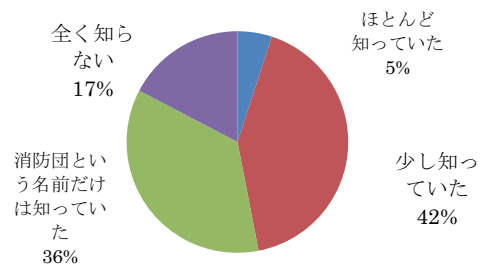


図-1 消防団活動内容の認知についての回答結果

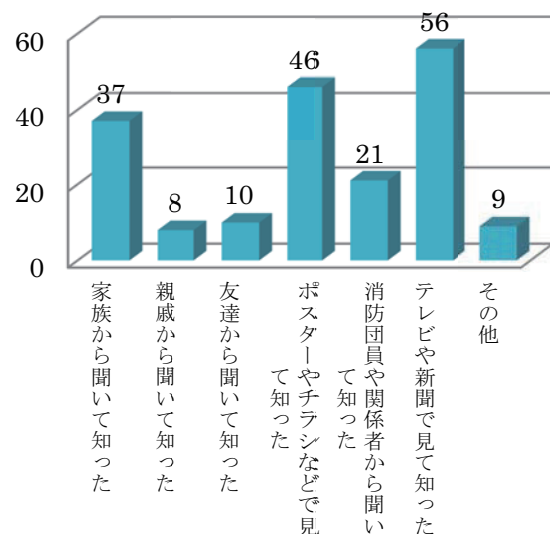


図-2 消防団を知った経緯についての回答結果

図-3 に問「別紙の消防団の説明を読んで入団したいと思いましたか？」の回答結果を示す。多くの学生が、消

防団活動に興味を惹かなかったようである。入団したいとした学生にその理由を複数回答可でたずねたのが図-4である。これをみると、興味をもった、という回答のほか、就職について考える機会になりそう、という学生が多い。入団したくないとした学生に理由をたずねた結果が図-5である。これをみると、興味がない、時間がない、に続いて体力がいりそう、という回答となっている。

愛工大に学生消防団が組織されたら参加するか否かたずねたところ、約4割の学生が是非参加したい、あるいは参加するかもしれないと回答し、図-3の結果よりも若干前向きな意見が増加した。

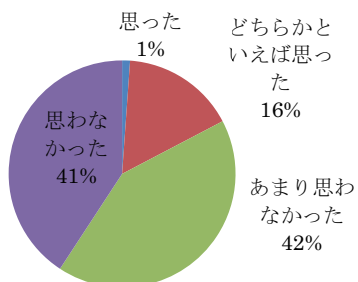


図-3 入団したいと思ったかについての回答結果

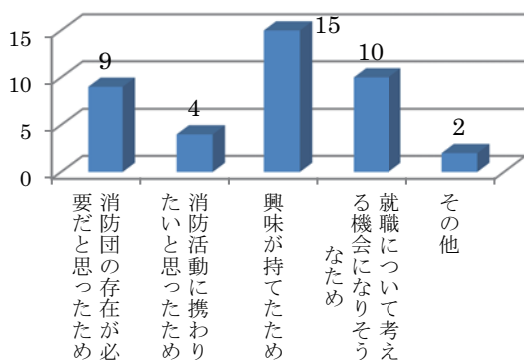


図-4 消防団活動の報酬についての回答結果

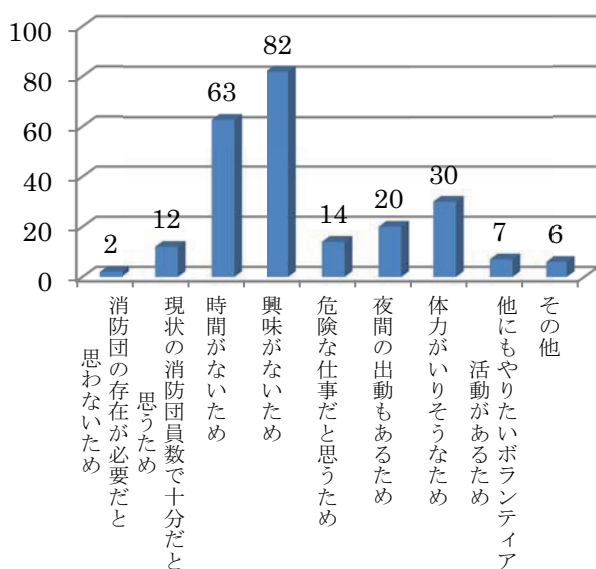


図-5 消防団活動の報酬についての回答結果

図-6に問「54年間で消防団員が約180万人から約90万人に減少しています。一方で消防職員が約3万人から約16万人へ増加しています。これについてどう思いますか？」への回答結果を示す。回答者の半分は消防団員が

減ることには反対している。一方で消防団と消防職の活動の違いがわからない、という学生が約3割いた。

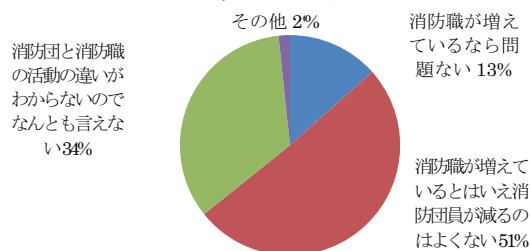


図-6 消防団員の減少についての回答結果

図-7に問「消防団員には年間約3万6千円程度の報酬と、1回の活動ごとに出動手当も支給されます。また、勤務年数が5年以上の団員には退職報償金が勤務年数と階級に応じて少なくとも約14万円支給されます。これについてどう思いますか？」への回答結果を示す。ほとんどの学生が「適当な報酬額だと思う」もしくは「活動内容に対して報酬が少ない」と回答している。このことから報酬額の見直しをすることで、大学生の消防団への参加意欲が向上する可能性があると言える。

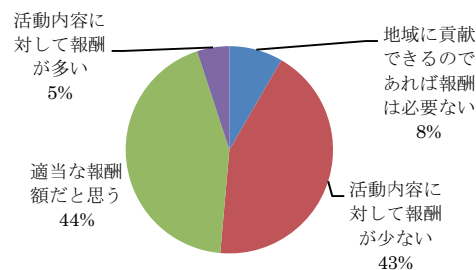


図-7 消防団活動の報酬についての回答結果

#### 4. 考察

消防団に入団している学生はおらず、消防団を知った経緯もメディアを通じたものが一番多かった。また学生の居住地属性からクロス集計を行っても、都市部と郊外との差は見られず、以前のような地縁等による入団勧誘は大学生に対してはほとんど行われていないようである。報酬が少ないと回答した学生が多く、活動内容に対して「体力がいりそう」などの回答が多い。一方で、身近に参加機会があるなら就職等を考える上でも参加してみたいと考えている学生も見られることから、大学生の消防団員を増やすには、活動内容に見合った報酬を支払うことや、学生の参加しやすい環境を作ること、学外実習（インターンシップ）などとの連動も検討の余地があると考えられる。

#### 5. まとめ

本研究では、アンケート調査を通じて大学生の消防団に対する認知度と参加意欲について調査した。今後は、防災教育や進路を考えるプロセスの中で消防団活動に関わることの意義や方法について考える必要がある。

#### 参考文献

- 1) 大学生等の消防団活動への参加促進について（通知）2006. <http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi1801/pdf/180120sai025.pdf>
- 2) 総務省消防庁 大学生向けホームページ <http://www.fdma.go.jp/syobodan/welcome/student/index.html>